

元気
ですよっ!

Y防協 O B 探訪

順風満帆時には
次への
ステップを
考えよ!



渡辺 貞治さん
元参与・2010年退職／警視庁OB

Y防協をどのように漕ぎ出すか——。その時、暗中模索の状況にありました。当初、担当者は2人だけ。アイデアはあっても、その実現のため動くことのできる要員数ではありませんでした。正に「逆風」の中、船は港を離れたという感じでした。

Y防協の設立趣旨を説明するため、都道府県警察本部・生活安全課のドアを叩きました。が、係の方の反応には温度差があり、漕ぎ出した船は「逆風」の強弱に悩まされながら、全速前進するしか航路は見いだせませんでした。

そうした状況に転換期が訪れることになりました。警視庁が「防犯覚書」を締結することに同意してくれたのです。2005年(平成17年)

12月26日、調印式は行われました。寒い日だったことを覚えています。私にはとても暖かなクリスマスプレゼントになりました。その後、紆余曲折はあったものの、警視庁との締結を契機に全国都道府県警察本部との「防犯覚書」の締結は順調に進みました。

一方で、Y防協の存在、活動内容を広める必要を大いに感じていました。思案の結果、夏休みに行われるNHKの「朝の全国巡回ラジオ体操」に目をつけました。ラジオ体操終了後に防犯講習を行うことで、Y防協の知名度を上げようという計算でした。交渉はNHKだけではないと思いきや、実際は総務省の所管で、総務省、NHK、主催市区町村、管轄する警察署、そしてYCとの事前打ち合わせが必要でした。時間と費用はかかりましたが、着眼点は良かったと今でも思っています。

三つ目は防犯川柳です。今では3万句に近い投稿があると聞いています。その初期の頃は、選者・今川乱魚先生の名声と指導によって、1万7000句の川柳が寄せられました。不安が喜びに変わり、最後には驚きに変ったことを覚えていきます。

いろいろなことが、まるで昨日のこのように思い出されます。ここに書き切れないほどの思い出がたくさん残っています。

犯罪多様化に
即応できる
セミナー
実施を!



更江 篤さん
元参与・2011年退職／警視庁OB

発足10周年おめでとうございます。私は2006年(平成18年)4月から、現職時代(生活安全部門)の経験を生かせる第二の職場として、読売新聞東京本社に入社し、Y防協で業務することになりました。

当時、「防犯覚書」は東京都と数県しか締結できていないという状況にありましたが、その